好奇心漫遊記：世の中面白い事だらけ

社会科編-5：アメリカ生活カルチャーショック

矢澤　洋爾

1991 年から 1992 年に掛けてアメリカ生活を経験しました。

その時のカルチャーショックをご紹介します。

１）住所表記のカルチャーショック

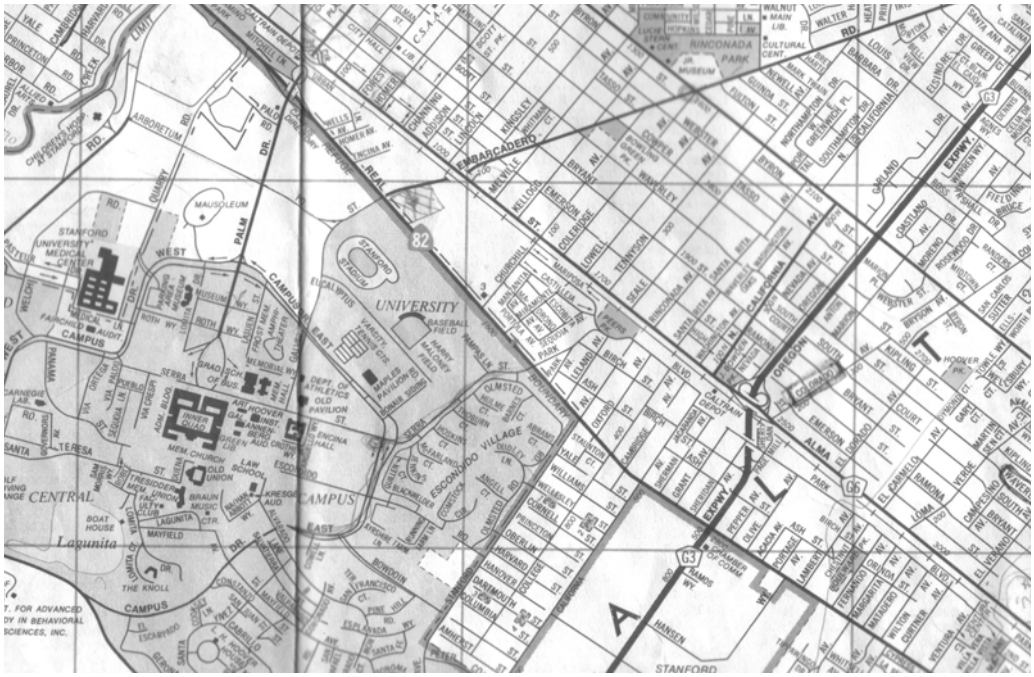
1991 年 6 月僕のアメリカ生活は Stanford Terrace Inn というホテルで始まりました。住所は

531 Stanford Ave. Palo Alto, CA 94306

日本流に翻訳すれば

531 番地スタンフォード通りパロアルト市カリフォルニア州 〒94306

というところでしょうか。大きな単位から小さな単位に絞っていく日本式の住所表記と違って逆に書くということは前から知っていましたが、それがもっと本質的な違いであることは後に知りました。


STANFORD UNIVERSITY MEDICAL CENTER
MAUSOLEUM
ARBORETUM
STANFORD STADIUM
UNIVERSITY
CAMPUS
CENTRAL
Lagunita
THE KNOLL
BOAT HOUSE
RIPPER CHAPEL
ARCHIVES
MEM. CHURCH
OLD UNION
BRAUN MUSIC CTR.
KRESGE AUD.
LAW SCHOOL
ESCONDIDO VILLAGE
BASEBALL FIELD
DEPT. OF ATHLETICS
OLD PAVILION
BAKER PAVILION
ENCINA HALL
RINCONADA PARK
CULTURAL CENT.
EMBARCADERO
REAL
PALM
WEST
EAST
CAMPUS
STANFORD
HANSEN
EXPWY.
CALTRAIN DEPOT
CALIFORNIA
OREGON
ALMA
HOOVER PK.
WALTER RD.
LOUIS
BARBARA DR.
GARLAND
COASTLAND
MORENO
ROSEMARY DR.
RANDER
PRESTER ST.
SAN CARLOS
SUTTER
BRYSON
KIPLING
BRYANT
COURT
EMERSON
EL CAMINO REAL
RAMONA
LIMA
VERDE
CAMPESINO
SOUTH
BRYANT
PALE
CAMINO
ALTAMIRA
ARBORETUM
QUARRY
YALE
PRINCETON
HARVARD
CAMPUS
CARNEGIE LAB.
HANNAH
SEGOVIA
VIA OCASO
VIA PUEBLO
VIA MESA
VIA ORTEGA
SERRA
TERESA
SANTA
GOVERNORS
MEM. UNION
TRESIDDER
MEM. UNION CLUB
LAGUNITA
MAYFIELD
CAMPUS
ESCARPADO
CAMINO
CONSULADO
CAMINO
CAMINO
SANTA
ESTUDILLO
ESTUDILLO
ESCONDIDO
ESCONDIDO
ESCONDID

そして住所表記も「その家が道路のどこにあるか、その道路はどこの市にあるのか」という絞り方で、つまり二次元的広がり（面＝市）から一次元（線＝道路）へ、さらにゼロ次元（点＝地番）という絞り込み方が本質にあるのです。

これに対して日本式はどこまでも二次元の領域を絞り込んでいくという方法をとっています。県という大きな領域から市というやや大きな領域、町というやや小さな領域、さらに丁目、番地と小さく絞り込んでいく。どこまで行っても二次元です。

これは国際的に見るとかなり特殊で、たとえば僕が北京で泊まったホテルの住所は

北京市朝陽区東三環南路 100 号

となっています。「北京市朝陽区」までが二次元、「東三環南路」が一次元、そして「100 号」で場所を特定している。たぶんこの方が合理的で国際標準と言えるのでしょう。

住所表記の方法において本質的なことは、ある地点を特定するために次元を絞り込んで行くのかあくまで二次元空間の広さを絞り込んで行くのかの違いであって、小さい方から書くか大きい方から書くか、ではない。日本の住所を欧米式に逆さまに書くのは止めましょう！！

２）学校教育のカルチャーショック

アメリカで住む場所を決めて次に行ったのは、遅れて来る子供達が通う学校の手続きでした。

こちらの住所を証明する書類を出して、子供達の氏名と生年月日を記入して、さあこれで手続きが終わった、と思ったその瞬間、次の質問に僕は凍り付いてしまった。

「ところで、あなたは子供達を何年生に入れたいんですか？」

だって・・・・生年月日で入る学年は決まっちゃうんじゃあないの？

アメリカでは小学校・中学校は自分で行きたい学年を決めることができるんです。一番上の娘は最初中学二年に入って、途中で中学一年に変えてもらい、また二年生に戻してもらいました。嘘のような本当の話です。

３）数学教育のカルチャーショック

アメリカの算数は遅れているという評判を良く耳にします。確かに小学校２年生の娘が持ち帰る宿題の内容は日本では幼稚園生程度の内容でした。中学校に入る際に能力確認のために行われたテストも実にやさしい内容であったようです。しかし、実際に学校が始まってみるといろいろと考えさせられる事がありました。

驚いたのは小学校４年生の算数の教科書にBASICプログラムについてそのルールなどについての簡単な説明があり、あとの方でプログラムリストが示されて、このプログラムを実行したらどんな結果が帰って来るでしょうかという問題が載っていることです。さすがにコンピュータ社会と言われるだけの事はあると感心したものです。

さらに驚くことに日本だったらまず学校では教えないような、問題解決とは何かというような章が同じ教科書に載っています。［問題を解決するためにはまず問題を定式化しなければならない。云々］とまるで日本なら、社会人向けのような内容です。それでいて、計算問題はというと３０×２５０＝といった日本では２学年下のような内容です。

やさしさと難しさの感じ方が日本と随分と違うのだなあと感じた次第です。ともかく計算よりも考え方の方に比重があることは間違いありません。

小学校４年生の宿題は次のような具合です。

［次の問題を解くためにはどんな情報が必要ですか。

大観覧車は１９ＸＸ年に作られました。その５年あとにイギリスでもっと大きいものが作られました。イギリスで作られたものには１等車が１５個、２等車が２１個ありました。最初に作られた大観覧車とイギリスで作られたものとのれる人の数はいくつ違うでしょう。］

中学校の数学も結構難しい。

子供が持ち帰る宿題の内容を見ると、随分と程度は高いような気がします。中でもおもしろかった問題を次に記しておきます。結構難しいでしょう？

［例題

８００はいくつの約数を持っているでしょう。

(How many factors does 800 have?)

３５６２！を計算したら下何桁まで０が並ぶでしょう。

(How many terminal zeros does 3562! have?)］

日本で計算問題が重視されたのは、蓋しそういうことが世の中の要求としてあったからなのでしょう。つまり高度成長をする段階で、コツコツと間違えなく与えられた仕事を処理していくようなそんな人材を社会が要求していたのではないか。計算問題を間違えなく答えられるようなそんな人が高度経済成長に必要だったのでしょう。日本もそろそろそういう教育形態から変わっていく必要がありますよね。

「答えが２÷（２／３）になるような問題を作りなさい。」

こんな問題を考えてみるのも頭の体操になっていいかも知れません。

４）知っているようで怖い英語

「親しい友人」を英語で「intimate friend」と言ったりしませんか？実はこれが大変危険な言葉だと聞かされてカルチャーショック。

"intimate"という言葉は"Sex"を暗示する言葉なのだそうです。

例えば友達に異性の友人を紹介され二人が随分と親しそうにしていたら後で陰でこっそりと

"Are you intimate？"

と聞くというのが正しい使い方の一例。（この場合 you は複数）

日本語で言うと「もう出来てるの？」って感じでしょうか？

同性の親友を紹介する際に"intimate friend"なんて言ったりするから日本人はホモが多い、と思われてしまうのかも。こんな場合は"close friend"と言って下さいね。

"intimate"を英英辞典で引くと以下のようになっています。

If you are intimate with someone, you have a sexual relationship with them.

intimate な相手が当たり前のように複数になっているところが面白い。

５）Yes と No のカルチャーショック

授業で先生から人違いをされて「君は前回出席しなかったね」と言われたとき、「いえ違います。ちゃんと出席しましたよ」と言いたいときは強く「Yes!!」と答えなければいけません。「 No!」なんて言ったりすると欠席を認めることになりますから、用心、用心。

ディズニーランドへ行ったとき、ホテルとの間を往復するバスの中で、日本人の旅行者らしい女性２人組が運転手と「Yes、No」を繰り返している。そして運転手はどうしても相手の真意がつかめないらしい。よく聞いてみると、帰りの迎えがいるのかいらないのかについてその女性達は「Yes」と言うべきところで「No」といい、「No」と言うべきところで「Yes」と言っている。運転手が混乱するわけだ。

外交交渉などで「日本人の『Yes』は『No』だ」と言われることがよくありますが、それは日本人の曖昧な対応を揶揄したものではなく、もっと次元の低いものかも知れない、と思った次第。

６）ファーストネームのカルチャーショック

カルチャーショックとまでは行かなくてもファーストネームで呼びあう習慣は戸惑です。アメリカ生活も数ヶ月が過ぎると、流石にGood morning, Masaru!とファーストネームで呼ばれることには慣れ、むしろ嬉しい気もします。しかし、先生をJohn, とかPaul とかファーストネームで呼び捨てにするのは気が引けて、挨拶する時どうしてもGood morning, John!と最後の方はデクレッシェンド（>）が掛かってしまいます。そしてその事が余計に失礼な印象を与えているのではないかと気になってしまうのです。皆様も試しにGood morning, John!の"Good morning"を「おはよう」に、"John!"を恩師のファーストネームに置き換えて直訳してみてください。いかに戸惑いを感じるか分かって頂けるかと思います。

７）和語漢語英語

・日本語には和語と漢語があります。和語は骨の随から我々日本人のもの、漢語は中国から輸入した後天的なものとも言えるでしょう。和語はすぐに英語に直せるが漢語はなかなか直せません。「送金する」というのを英語でなんと言うんだろうと考えて、なんだ「金を送る」かと思えば実に簡単。

同じことは

報道する--知らせる--report

上告する--訴える--appeal

などでも言えます。

日本人が英語習得が苦手だとすれば、このように漢語から和語をへて英語にするという２段階の翻訳を強いられているからではないでしょうか。どこの国でも自国語の中に２種類の言葉を持っている国はないでしょうから。

実は僕は「出来るだけ和語を使おう運動」をやりたい、と思ってます。「身長」と言わずに「背丈」と言おう、「体重」と言わずに「目方」と言おう。

８）冠詞と定冠詞

英語に慣れて来ても、なかなかコツがつかめないのが"the"と"a"の使い分けです。

両者の違いが日本語では「は」と「が」の違いに相当するのではないか、と言う本がありました。（日本人の英語：岩波新書）

これはじつに的を得た指摘であると思いました。

例えば、「机の上に本があります。その本は私のです。」であり

"There is a book on the desk. The book is mine."です。ここで「は」と「が」を間違えて使うととても変な感じになります。「机の上に本はあります。」と言えば、「えっ？どの本

のこと？」と聞きたくなりますね。そんな感じが"There is the book on the desk."といきなり言ったときの感じなんでしょう。

つまり双方の間でどの本が話題になっているのか了承されている場合には「は」や"the"を使え、それ以外には「が」や"a"を使うべきだと言う事になるのではないでしょうか。

だから

The swimmer from Brazil won the 100m Breaststroke. と

A swimmer from Brazil won the 100m Breaststroke.

は日本語でもちゃんと区別が出来て、

前者は「ブラジルの水泳選手は100m平泳ぎで優勝しました。」

後者は「ブラジルの水泳選手が100m平泳ぎで優勝しました。」となるでしょう。前者の場合話題の主を双方で事前に合意していることは言うまでもありません。

９）アメリカうどんのカルチャーショック

解説無し。

(2005.3.19)